

2022年度 事業計画書

2022年4月1日から

2023年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	2022 年度事業方針	1
事業計画		
1	総 会	5
2	役員会	5
3	調査及び研究 (定款第 5 条 1 号)	5
4	研究発表会及び学術講演会等の開催 (定款第 5 条 2 号)	7
5	学術誌及び学術図書の刊行 (定款第 5 条 3 号)	8
6	人材の育成 (定款第 5 条 4 号)	10
7	規格の作成及び普及 (定款第 5 条 5 号)	14
8	内外の関連機関、団体等との提携及び交流 (定款第 5 条 6 号)	15
9	研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 5 条 7 号)	16
10	その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第 5 条 8 号)	17
	参考：事業区分の説明	18

2022 年度事業方針

本会では自動車を取り巻く状況の急速な変化を踏まえ、昨年度ブランドロゴを刷新するにあたり、モビリティ技術に貢献する学術団体としてのあり方をあらためて議論し、**Vision, Mission, Statement** を以下の通り明文化した。

Vision：技術者の魂を揺さぶる「場」であり続ける。

Mission：人と知をつなぎ、モビリティの未来を支える。

Statement：私たちは、自動車に関わるすべての人が知を共有し、技を磨き、未来を熱く議論し合う「場」でありたい。モビリティ技術は、絶えず進化を求められている。暮らしを豊かにし、地球環境に負担をかけない。そんな社会を実現するために。あらゆる壁を越えた交流・共創・発信・育成を、私たちは推進していく。スピーディーに、そして力強く。

CASE、MaaS 等の技術やサービスの急速な変化に加え、カーボンニュートラルに代表されるグリーン成長戦略の見直しは、日本の自動車産業にとって極めて重要なテーマであり、本会としても積極的に取り組むべき課題となっている。一方、この2年間の新型コロナウイルス感染症の拡大は、事業のオンライン化の導入などの取り組みにより新たな可能性も拓けたものの、①事業収支の不安定化、②会員数の減少を始めとして、本会の事業環境にも大きな影響を与えている。これらのことを踏まえ、本年度は以下の3つを重点項目と定めて事業を展開する。

I 新たな技術領域の開拓，会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進

II 新しい自動車技術会ブランドの浸透と **Vision, Mission** 実現に向けた活動強化

III with CORONA 環境下においても持続発展可能な新たな事業運営の構築

1. 3つの重点項目に対応した主な取り組み

- ① 新たな技術領域の開拓，会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得を推進するために以下のような施策を展開する。
 - ・本会の **Web** サイトの使い勝手を向上させるため、シングルサインオンシステムを導入するとともに、コンテンツの充実と **HP** のリニューアルを行う。
 - ・技術会議、共同研究センターが連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会を設立する。
 - ・新オンライン展示会を本格開催し、これまでの展示会に参加された以外の技術分野からの積極的な参加を呼び掛ける。
 - ・昨年度電子化した会誌のレスポンス **HTML** 化を実施し、質の向上、読者の満足度を高め

る。

- ・自動運転 AI チャレンジ、CASE 技術基礎講座、サイバーセキュリティ講座、エシカル・エンジニア開発講座等の新技術分野連携型の事業を強化し、他分野との交流を深化させる。
- ・規格領域においても、CASE, MaaS およびカーボンニュートラルといった社会の動きを捉え、ISO, JIS の自動車周辺分野への委員派遣等を通じて戦略的な異分野連携を強化する。

② 新しい自動車技術会ブランドの浸透と Vision, Mission の実現に向けて事業強化や HP のリニューアルなどの広報活動の強化を実施して訴求活動を継続する。

③ with CORONA 環境下においても持続発展可能な新たな事業運営を構築するために、昨年度迄に実施した事業のオンライン化、ハイブリッド化などの対策を継続強化し、感染状況に応じた臨機応変な対応を実施する。主な施策は以下の通り。

- ・フォーラムのオンライン化の継続。
- ・「人とくるまのテクノロジー展」の現地開催に加えたオンライン開催の強化
- ・春季・秋季大会の、感染拡大状況に応じた、臨機応変な開催。
- ・各種委員会のオンライン開催の推進

2. 予算編成の基本方針

- ・公益法人に求められる財務 3 要件である、① 収支相償、② 公益目的事業比率 50%以上、③ 遊休財産額の保有制限に対する率 100%以内を満たす予算を策定する。
- ・2021 年度収益予測を反映した適正規模の予算を立案する。

1 総 会

第12回定時総会を2022年5月26日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2021年度決算報告の件、2022-2023年度理事選任の件、2022-2023年度監事選任の件、
名誉会員推薦の件、役員報酬の件

報告事項 2021年度事業報告の件、2022年度事業計画の件、2022年度予算の件

2 役員会

2.1 理事会を5回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を4回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。

共同研究センターでは、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

技術会議運営検討委員会と共同研究センター運営委員会が連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行う。

3.1 技術会議

(1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

(2) 部門委員会

48 部門委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

- ① 2022 年春季大会において、オーガナイズドセッションを開催する。
- ② 2022 年 7 月、オンラインにてフォーラムを単独開催する。
- ③ シンポジウム・講習会を開催する。
- ④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により 2022 年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

<主催>

- ① AVEC2022 実行委員会 (2022 年 9 月 12 日～16 日 神奈川工科大学 神奈川)
AVEC: International Symposium on Advanced Vehicle Control
- ② SETC2022 実行委員会 (2022 年 10 月 31 日～11 月 3 日 アクリエ姫路 兵庫)
SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

(5) 他学協会との連携

- ① 自動車用材料共同調査研究会 (材料部門委員会と日本鉄鋼協会)
- ② 自動車制御とモデル研究部門委員会と計測自動制御学会との連携
- ③ マルチマテリアル構造設計技術調査委員会 (構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合)

3.2 共同研究センター

(1) 委員会

下記 3 委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

- ① 新たなモビリティ社会に向けたイノベーションガバナンス検討委員会
- ② 自動運転 HMI 委員会
- ③ 新規事業企画検討委員会

(2) 他学協会との連携

2022 年度は無

3.3 研究調査事業

技術会議の 1 委員会が拠出型にて 2 テーマを実施する。(総額予算 税込 1,400 千円)
(車室内環境技術部門委員会)

3.4 受託事業

技術会議傘下の委員会により以下を実施する。(総額予算 税込 1,200 千円)

SAE World Congress 等海外における PM 研究動向の最新研究調査

(大気環境技術・評価部門委員会/受託先: 日本自動車工業会)

PM: Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第 5 条 2 号、公益目的事業 2・3・自動車技術展は収益事業)

各種催事の開催形式をオンサイトのみならずオンライン化を促進し、幅広くより多くの方 (ステークホルダー) に参加いただける機会を提供する。

- ・ 春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。
- ・ 「人とくるまのテクノロジー展」は、横浜、名古屋、オンライン開催の 3 本柱とする。昨年度に引き続き、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てたオンライン展示会を開催する。
- ・ 技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、シンポジウムならびにフォーラムを更に活性化させ、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携により内容の充

実を図る。

4.1 春季大会

2022年5月25日(水)～27日(金)にパシフィコ横浜(横浜市)並びにオンラインにて開催する。学術講演会、Keynote Address、学生ポスターセッションを実施する。

4.2 秋季大会

2022年10月13日(水)～15日(金)に大阪国際会議場(大阪市)並びにオンラインにて開催する。学術講演会、Technical Reviewのほか、関西支部の協力を得て市民公開特別講演を実施する。

4.3 自動車技術展

人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋展示会とオンライン展示会を開催する。主催者企画は共通テーマ「熱い思いで切り拓こう！カーボンニュートラルへの道」を掲げて実施する。

① 人とくるまのテクノロジー展 2022 横浜 (2022年5月25日(水)～27日(金))

パシフィコ横浜(横浜市)

「新たな脱炭素技術が照らすカーボンニュートラルへの道」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。

② 人とくるまのテクノロジー展 2022 名古屋 (2022年6月29日(水)～7月1日(金))

ポートメッセなごや(名古屋市)

「知恵・技・匠が照らすカーボンニュートラルへの道」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。中部支部企画を実施する。

③ 人とくるまのテクノロジー展 2022 オンライン STAGE1

(2022年5月25日(水)～31日(火) / プレオープン: 5月18日(水)～24日(火))

プレオープン期間を横浜展示会への来場者誘引に活用すると共に、STAGE1では横浜展示会のコンテンツを中心に配信する。

④ 人とくるまのテクノロジー展 2022 オンライン STAGE2

(2022年6月29日(水)～7月5日(火)) / プレオープン: 6月22日(水)～28日(火))

プレオープン期間を名古屋展示会への来場者誘引に活用すると共に、STAGE2では名古屋展示会のコンテンツを中心に配信する。

4.4 新たなオンライン展示会

他領域の機関・学術団体との連携を推進するため、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てたオンライン展示会を2022年度後半に開催する。

4.5 フォーラム

技術会議及び共同研究センター傘下の委員会を中心とした企画により2022年7月11日(月)～14日(木)にオンラインにて20件開催する。

4.6 シンポジウム・講習会

技術会議及び共同研究センター傘下の各委員会企画により10回開催する。

4.7 国際会議

専門技術分野の国際会議等を以下のとおり開催する。

- ① AVEC2022 (2022年9月12日～16日 神奈川工科大学 神奈川)
AVEC: International Symposium on Advanced Vehicle Control
- ② SETC2022 (2022年10月31日～11月3日 アクリエ姫路 兵庫)
SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference
- ③ 第33回内燃機関シンポジウム(幹事学会:日本機械学会 2022年11月21日～24日 KFC Hall & Rooms 東京 燃焼シンポジウムとの併催)

5 学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

この2年間の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う事業収支の不安定化や会員数減少を踏まえ、会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進を目指して、新たなコンテンツ・情報サービスの創出を推進する。

5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行 (公1)

(1) 会誌「自動車技術」

- ・会誌「自動車技術」は2021年4月号より電子化し、オンラインにて配信することで、タイムリーに会員に新刊を提供でき、時間・場所を問わず閲読できるようになった。個人会員の方は文献・情報検索システムにおいて、創刊当初から過去の会誌を無償で閲読可能とする。
- ・検索機能の導入や動画の活用、図の拡大機能、レスポンス HTML 化による閲覧性の向上など電子化のメリットを活かした提供方法・内容・フォーマットの改善を継続検討する。
- ・今後、若手技術者・学生向けの新企画や、教育観点の連載企画をはじめ、SNSの活用や、会員外の方は会誌記事のサンプルを閲覧できる機能を設けるなどすることで、会誌の購読率向上を図る。
- ・魅力ある会誌づくりを目的に、2020年4月号より開始した読者アンケートを継続して実施する。

(2) 「文献情報収集」

- ・文献・情報検索システムにて、本会発行文献・SAE Paper等の書誌事項・抄録掲載を引き続き実施する。
- ・文献・情報検索システムの内容拡充および普及を推進するため、技報等の技術情報(抄録等)の継続掲載を実施する。また、周辺メーカなどの公式に発行されている技報の掲載検討・調整、国際会議の抄録掲載の検討などの技術情報収集活動を継続して行う。システムの内容拡充と共に、システムの機能拡充も検討し利便性向上に繋げる。

(3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版刊行物として継続発行する。

(4) 「日本の自動車規格」の日本語版(DVD)、および英語版(WEB)を発行する。

(5) 第72回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー記事を会誌「自動車技術」に掲載する。

(6) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を電子版刊行物として発行する。

(7) 「高翔」(関東支部企画・編集)、「宙舞」(中部支部企画・編集)年2回、「関西支部ニュース」(関

西支部企画・編集)を電子版刊行物として発行する。

- (8)「みんなのモーターサイクル工学講座－運動のひみつ－」(監修:二輪車の運動特性部門委員会)の販売を促進する。本書籍は会誌に全12回にわたり掲載した「モーターサイクル工学基礎講座(運動性能編)」に加筆した内容となっており、工学的予備知識のない方でも理解しやすいようにまとめている。本書は、一般販売をはじめ、基礎講座のテキストとしても活用する。
- (9)自動車工学図書についても電子化書籍の発行を検討し、ユーザ利便性の向上を図る。
- (10)自動車用語多言語辞典のマルチデバイス対応と掲載内容拡大、さらに編集機能の追加を検討する。
- (11)自動車工学ハンドブックの内容をデータベース化し、ユーザが利用できる仕組みの実装を検討する。

5.2 研究発表に関する学術誌の発行(公2)

本会が取り扱う学術文献の活用度を大きく高めるため、出版案内やJSAEライブラリの文献データベースを新たに構築した文献・情報検索システム上に統合し、ワンストップで文献調査可能な環境を提供することで、会員サービス拡充・新規入会者増加に繋げる。

- (1)「自動車技術会論文集」
 - ・J-STAGEにて年6回発行する。
 - ・オンライン査読システムにより、投稿から掲載までの期間を短縮しつつ高いクオリティの論文を発信する。
- (2)「International Journal of Automotive Engineering (IJAE): 英文ジャーナル」
 - ・J-STAGEにて年4回発行する。
 - ・英文ジャーナルの学術的価値向上を目指し、インパクトファクター取得に向けた具体的施策を推進する。
 - ・IJAE専用、新たに論文査読システムを設置し、オープンアクセスや、学術講演会、国際会議からの直接投稿への対応、および海外投稿者の利便性の向上を図る。
- (3)春季・秋季大会学術講演会講演予稿集、およびフォーラム資料を電子版刊行物として発行する。

5.3 人材育成に関する学術図書の発行(公3)

- (1)シンポジウム及び講習会資料を電子版刊行物として発行する。
- (2)会誌「自動車技術」において教育的記事を連載する。
- (3)関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.24」を発行する。

5.4 広報関連他の発行

- (1)JSAEメールマガジン(インターネット配信)を週1回発行する。中部支部メールマガジン(インターネット配信)を月1回発行する。
- (2)国内への広報活動としてプレスリリースを発行し、本会事業の広報に努める。
- (3)支部だより(北海道支部1回)、行事案内(関西支部7回)を発行する。

6 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

次世代エンジニア育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア 2022」、中高生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム（学習・コンテスト・進路案内）」、大学生向けに「学生フォーミュラ日本大会 2022」等ものづくり教育の場を提供する。その他、大学生の発表機会として「学生ポスターセッション」を継続する。また、学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。新技術分野の人材発掘、育成のため「第4回自動運転 AI チャレンジ」を6月、「第5回自動運転 AI チャレンジ」を11月頃開催予定。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。

6.1 自動車工学基礎講座

ライブやオンデマンドなどの配信形態による開催を行う。また、地域や企業団体からの要望に応じた実地開催も継続する。

6.2 CASE 技術基礎講座

5G などに代表される通信、自動運転、人工知能の活用に必要な基礎的教育の機会を提供すると共に、工学的分野において新しい知見を取り込み、CASE 技術基礎講座を充実させる。

6.3 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し、8月に開催する。また、実習型の講座を引き続き開催する。

6.4 システムズエンジニアリング講座

システム思考、論理思考、自動車のコンテキスト全体に関する理解など自動車エンジニアに重要となる思考定着を企図し、システムズエンジニアリング講座を開催する。

6.5 支部の講演会・見学会等

- (1) 北海道支部：講演会 2 回、特別講演会 1 回、見学会 1 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2022 4 回、市民講座 5 回を開催する。
- (2) 東北支部：講演会 4 回、見学会 3 回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座 9 回、セミナー 5 回、親子マイコンカーラリー体験科学教室 1 回を開催する。
- (3) 関東支部：講演・講習会 11 回、見学会 11 回、支部社会活動として公開講座を開催。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。社会貢献活動として第 13 回群馬県高校生電気自動車大会に参画する。また、中高生向けの活動としてエコ 1 チャレンジカップを企画・開催する。
- (4) 中部支部：講演会 4 回、研究発表会 1 回、見学会 13 回、技術講習会 5 回、技術交流会 2 回、体験型講習会 1 回、技術者懇談会 3 回を開催する。
人とくるまのテクノロジー展 2022 名古屋に展示イベント 1 回を開催する。
- (5) 関西支部：見学会 6 回、講演会 1 回、技術者懇談会 1 回、技術者交流会 1 回を開催する。
- (6) 九州支部：関西支部との合同例会 1 回、講演会 3 回、見学会 1 回、市民講座 4 回、技術者

交流会 1 回を開催する。

6.6 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.7 学生フォーミュラ日本大会 2022ーものづくり・デザインコンペティションー

学生フォーミュラ日本大会は、大会を通じてものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、産業の発展・振興に資する人材を育成する。2022 年大会は国内チームのエントリーに限定し、安全かつ効率的な開催として、オンライン開催と現地開催のハイブリッドにて実施（静的審査：オンライン開催、車検／動的審査：現地開催）。現地開催（車検／動的審査）は、2022 年 9 月 6 日（火）～10 日（土）にてエコパ（小笠山総合運動公園、静岡県掛川市／袋井市）にて実施し、オンライン開催（静的審査）は 8 月下旬に現地開催に先駆けて実施する。

6.8 自動運転 AI チャレンジ

自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする「自動運転 AI チャレンジ」の定着化と裾野の拡大を推進する。第 4 回となる自動運転 AI チャレンジを 2022 年 6 月頃、また第 5 回を 11 月頃に開催する。

6.9 キッズエンジニア 2022

キッズエンジニア 2022 は、以下の通り実地とオンラインにてハイブリッド開催する。

実地開催：7 月 29 日（金）～30 日（土）にパシフィコ横浜（神奈川県横浜市）（2022 年 3 月末までに実地開催の可否を決定する）。

オンライン開催：8 月中旬～8 月末（予定）

6.10 支部の小学生プログラム

- (1) 北海道支部：「キッズエンジニア」を 4 回、関東支部と共同開催する「くるま未来体験教室」を 1 回開催する。
- (2) 東北支部：クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北 2022」を 1 回（支部主催：会場はスリーエム仙台市科学館にて協賛企業と連携）と「自動車の作り方と東北の自動車工場」、「第 7 回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」、「小学生のための自動車教室」、「親子マイコンカーラリー体験科学教室」を各 1 回開催する。
- (3) 関東支部：「小学生くるま未来体験教室」を 7 回開催（うち 1 回は他支部との共同開催）「キッズエンジニア in 東北 2022 仙台（第 6 回）」に東北支部と共催で参加。
- (4) 中部支部：「キッズ・モノづくりワンダーランド」を 10 回開催する。（うち 1 回はキッズエンジニアに出展）。
- (5) 関西支部：「キッズエンジニア」を 2 回開催する。
- (6) 九州支部：キッズエンジニア in 九州を開催する。

6.11 学生生活動企画委員会

全国 6 支部による学自研活動をはじめとする学生生活動の連携の他、学生生活動全体の推進を行う。大学生の発表機会として「第 3 回学生ポスターセッション」を春季大会にて併催する。その他、学生委

員による技術者へのインタビューなどの取材企画を実施する。

6.12 エシカル・エンジニア開発講座

先進技術開発におけるモラル、倫理問題に対する人材育成ニーズより、エシカル・エンジニア開発講座を開催する。

6.13 学生安全技術デザインコンペティション

2023年4月に横浜で開催される世界大会へ日本代表チームを派遣すべく、2023年1月に日本大会（選考大会）を開催する。

6.14 中高生・大学生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム」

中高生を対象として、創造的なカーデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び「第11回カーデザインコンテスト」を実施する。また、大学生の方々に世界に誇る日本の二輪デザインを知って体験してもらえる機会として、「第9回二輪デザイン公開講座」を実施する。（企画：デザイン部門委員会）

6.15 学生自動車研究会（以下学自研）

(1) 北海道支部

学生委員会議1回、eモータースポーツ北海道支部大会2022 4回、学生フォーミュラ車検講習会1回、学生フォーミュラ合同試走会2回、学生フォーミュラ日本大会2022に参加、学生フォーミュラ日本大会2022活動報告会1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回開催。

(2) 東北支部

支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、特別講演会1回、見学会1回、第41回タイヤ研修会、第32回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、第33回手作り自動車省燃費競技大会、第37回自動車整備コンテストを各1回開催。技術講習会1回、学生EVフォーミュラ支部試走会4回、模擬機械車検会1回、模擬EV車検会1回開催。第20回全日本学生フォーミュラ日本大会2022へ1チーム参加。

(3) 関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・講習会等を5回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第20回全日本学生フォーミュラ日本大会2022に参加。並行してフォーミュラ試走会を支部合同で1回、共催で3回開催。

(4) 中部支部

参与会2回、学生委員会5回、学生委員会引継会1回、学術研究講演会1回、安全講習会1回、ものづくりセミナー1回、支部合同試走会1回、人とくるまのテクノロジー展2021名古屋（プレゼン、フォーミュラカー展示）1回、走行技術トレーニング4回、ドライバートレーニング4回、基礎技術交流会1回、中部地区交流会1回、動的講座1回、スズキエンジン講習会1回、雪上ドライビング講習会1回、EV・ICV比較走行会1回、Web新企画2回を開催。また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。学生フォーミュラ日本大会2022に参加。

(5) 関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、工場見学会4回、キッズエンジニア、新車試乗技

術説明会、卒業研究発表会、学自研入会説明会各 1 回開催。支部学自研ニュース発行 2 回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を 10 回開催し、講習会・勉強会計 9 回、試走会 3 回開催。

(6) 九州支部

支部学自研総会 1 回、研究発表会 1 回、講演会 1 回、見学会 2 回、安全運転講習会 1 回及び懇親会 1 回開催。第 20 回学生フォーミュラ日本大会 2022 へ 5 校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会 5 回、勉強会 2 回を開催。溶接講習会 1 回を開催。学自研機関紙発行 1 回。

7 規格の作成及び普及（定款第 5 条 5 号、公益目的事業 1）

規格会議では、CASE、Society5.0、カーボンニュートラル化等、自動車を取り巻くグローバルな社会変革の動きを見据え、従来領域(TC22 及び TC204)を超えた自動車周辺の標準化活動に、将来リスクが無いかの把握に努め、自動車業界として取り組むべき重点領域を設定し標準化活動を推進する。

7.1 自動車標準化委員会及び JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

自動車標準化委員会では、「自動車分野の標準化 5 年計画（2022 年度～2026 年度）」に沿って、自動車業界の標準化重点テーマ（自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティ領域など）について規格開発を推進する。また、日本が国際議長・幹事国を務める TC22/SC32（電子・電装領域）および国際議長を務める TC22/SC38（モーターサイクル・モペッド）において、日本の貢献を果たす。

JIS/JASO 規格審議委員会では、JIS/JASO の制定及び改正を推進する。また JIS/JASO を活用し、日本発の国際標準化に繋げて行く。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

- ①10 月に TC22 総会を京都で開催し、新 TC22 国際議長と各国代表との友好関係を構築、TC22 における日本の貢献を示す。
- ②標準化重点テーマ（自動運転安全設計手法、サイバーセキュリティ、ソフトウェア更新、安全性検証シナリオ、ドライバモニタリングシステム等）について積極的に日本の意見を反映していく。
- ③日本自動車工業会、日本自動車研究所等の関係団体と新技術(CASE、MaaS 等)領域についても連携強化を図る。
- ④自動運転標準化検討会において自動運転の国際標準化戦略を更新するとともに関連団体と連携し、基準・標準連携活動を推進する。
- ⑤日本提案の推進に向けた連携を欧米及びアジア諸国と図る。
- ⑥人財育成の観点で、規格の重要性・標準化プロセスを学ぶ ISO 研修会を開催する。
- ⑦冊子「自動車の標準化 2022」を作成・配布し、広報活動に努める。
- ⑧「自動車分野の国際標準化 5 年計画（2023 年度～2027 年度）」を策定する。

(2) 国内標準化活動

- ① JIS 制定 1 件・改正 1 件、JASO 改正 6 件、テクニカルペーパー制定 5 件を計画する。
- ② 新たな定期見直し実施方法(2019-2022 年度に実施)の結果を総括する。
- ③ 日本の自動車規格（DVD-ROM）をオンライン(Web)化する。
- ④ JIS/JASO 原案を効率的に作成するための規格原案作成講習会を実施する。
- ⑤「自動車分野の国内標準化 5 年計画（2023 年度～2027 年度）」を策定する。

7.2 ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ITS 標準化委員会では、自動運転やコネクティッド・カーの機能を取り込んだ次世代交通システムの発展と普及に資する自動車・インフラ・ユーザーの各分野および各分野間のインタフェースに関する規格開発を目指す。具体的には、「ITS 分野の国際標準化戦略 5 年計画（2022 年）」に沿って、特に日本が議長国である WG3（ITS 地理データ）と WG14（走行制御）において、国際標準化活動を戦略的に推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC204）

- ① TC204 総会、運営改善/プログラム編成/広報とマーケティングに関するアドバイザリグループや新たに設置された WG20（ビッグデータと AI）に参加し、日本の意見を反映する。
- ② TC204/WG14 では SAE（米国自動車技術会）や ETSI（欧州電気通信規格協会）などと連携しつつ、重点テーマであるモーターウェイショーファーシステム、自動バレー駐車システム、低速自動運転車両の遠隔支援システムなどの日本提案の作業項目や、その他重要な作業項目の策定を推進する。さらに効率的な国際会議の運営推進のため、WG14 の組織体制改革を検討する。
- ③ TC204/WG3 では、SIP-adus の成果を反映したダイナミックマップに係わる日本提案の作業項目の推進および TC211/JWG11 との協調による地理データファイル(GDF6.0)の PWI/NP 提案準備に注力する(日本デジタル道路地図協会)。
- ④ 欧米における ITS 分野の産業界の動向に関する情報収集を行い、標準化への影響について分析する。

(2) 国内標準化活動

- ① ITS 標準化委員会・技術委員会について、本会が事務局として活動する。分科会は、本会（WG14）のほか、日本デジタル道路地図協会（WG3）、UTMS 協会（WG9、10）、道路新産業開発機構（WG5、7、18、19）、国土技術研究センター（WG8）及び電子情報技術産業協会（WG16、17）が分担して事務局を担当する。なお、WG1 と WG20 に関しては国際活動状況を見ながら TF 等での対応とする。
- ② リエゾン関係にある TTC（情報通信技術委員会）及び ARIB（電波産業会）と連携すると共に、ITS Japan や日本自動車工業会などの関係業界団体とも連携する。
- ③ 冊子「ITS の標準化 2022」「ITS Standardization Activities of ISO/TC204 2022」を作成、配布するとともに標準化活動レポート（会誌掲載）などによる広報活動を進める。
- ④ ITS 分野の国際標準化戦略 5 年計画（2023 年）を策定する。
- ⑤ ITS 国際標準化フォーラムを開催する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第 5 条 6 号、公益目的事業 2）

従来の活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

- (1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。
- (2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。
- (3) 経済産業省の日本産業標準調査会（JISC）の交通・物流技術専門委員会他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に活動する。
- (4) 経済産業省と連携し、第4、第5回自動運転 AI チャレンジ（2022年6月頃、11月頃）を開催する。
- (5) 経済産業省の第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査に協力する。
- (6) 各国国土交通省が2年に一度主催する ESV 国際会議で開催される「学生安全技術デザインコンペティション」の国際大会（2023年4月開催）への日本代表チームの派遣を見据え、国内大会を実施する。
- (7) NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査」のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し、活動を引き続き推進する。
- (8) 日本機械学会が幹事となり、第33回内燃機関シンポジウム（2022年11月）を共催する。
- (9) 日本自動車工業会 安全・環境標準化部会、自動運転部会およびコネクティッド部会と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (10) 自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）自動運転基準化研究所において自動運転分野の国際競争力を確保するため、国連法規活動と連携した国際標準化活動を推進する。
- (11) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。
- (12) 自動車制御とモデル研究部門委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。
- (13) 構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合（ISMA）の連携活動を引き続き推進する。
- (14) 自動車サイバーセキュリティ講座を、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構、日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、車載組込みシステムフォーラムと連携して引き続き開催する。
- (15) 展示会開催に際し、他領域の機関・学術団体との連携を推進することによって、コンテンツ充実化を図る

8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) 学生フォーミュラを通じて各国との交流促進を図る。
- (2) 中国自動車工程学会（SAE-China）の中国自動車工程学会年会、韓国自動車工学会（KSAE）の韓国自動車工学会年会などにおいて協力する。
- (3) FISITA の執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (4) APAC-21（2022年10月、豪州）の開催に向けて協力する。
- (5) APAC Members Meeting などの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。
- (6) SETC2022（2022年10月31日～11月3日、兵庫）を SAE International と共催する。
- (7) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies
 APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference
 SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

9 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。
- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (7) ITS 標準化活動功労感謝状：ITS 標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (8) 編集・出版功績感謝状：編集委員会委員としての活動の功績が多大な個人、本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (10) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (11) 学生フォーミュラ大会 運営功績感謝状：学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献を挙げた個人の功績を称え、感謝状を贈呈する。

9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。
- (3) 学生ポスターセッション優秀賞：春季大会の学生ポスターセッションにおいて優秀なポスター発表を行った学生個人を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

（定款第5条8号）

- 10.1 会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進を目指し、既存の各種情報システムを統合し、シングルサインオンでアクセスできるプラットフォームの構築を進める。また、本会サイトについても利便性を向上させるべく、リニューアルを開始する。

2021年4月より稼働している「文献・情報検索システム」については、会員に役立つ魅力あるデジタルパブリッシングのコンテンツを拡充していく。

- 10.2 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。
- 10.3 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。
- 10.4 「2050年チャレンジ」及び「中長期事業戦略」に掲げた新規事業を実行に移していく。
- 10.5 支部総会・役員会

- (1) 北海道支部 : 支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。
- (2) 東北支部 : 支部通常総会1回、特別講演会2回、支部理事会3回、学自研参与会2回を開催する。
- (3) 関東支部 : 支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30回を開催する。
- (4) 中部支部 : 支部通常総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、顧問会1回、各事業別企画委員会を開催する。
- (5) 関西支部 : 通常総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、企画と編集委員合同会議1回、開催する。会員増強のため、会員・魅力拡大会議3回を開催する。
- (6) 九州支部 : 支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAE 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業